平成24年度 中学生の「税についての作文」優秀作品紹介

「税を考える週間」行事の一環として、税を考える週間実行委員会が荒尾玉名地区の中学生を対象に募集し、税についての知識と理解を深めるために毎年行われています。

今年度は、荒尾玉名地域の中学校16校から2,215点の応募があり、和水町から下記のとおり３人の生徒が受賞されました。

❶ 全国納税貯蓄組合連合会会長賞……竹下　真里（三加和中）
❷ 和水町長賞……深浦　麻岐（菊水中）
❸ 和水町教育長賞……吉永　和樹（三加和中）

全国納税貯蓄組合連合会会長賞

明るい未来へ

三加和中学校　三年　竹下　真里

近年、少子高齢化という言葉をよくきくようになった。そればかりか、二十一世紀半ばには、国民の二・五人に一人が高齢者という超高齢化社会が到来するという予測までも立っている。年々増えゆく高齢者に、減り続ける子ども達。そうなってくると心配されるのが、年金や医療費、それらを賄う税金のことである。「まだまだ先のこと。」そんなことを言っている人もいるが、もう目の前まできていると私は思う。

私が前のように思うのには、わけがある。それは、私の住んでいる町の現状にある。私の住んでいる町は、年々人口が減り続けている。それは、グラフを見なくても分かる。私の家の周りは、高齢者がほとんどで、高齢化が進んでいる。それと同様に、少子化も確実に進んでいる。近くの小学校は、入学者が十人を切るような状態になり、小学校の統合が進められている。小学生が減れば当然、中学校への入学者も減る。現に、私達の学年は、一組しかない。これから入学する学年も二組にはならないだろうとのことだった。又、私の家の近くにはもう、一人も幼稚園児、保育園児がいない。私が以前通っていた保育園も、最近廃園したようだった。これからは、職を求めて人口が流出し、さらに過疎化が進んでいくのだろう。

しかし、そんな状況だからといって、町は回っていないかというと、そうではない。年金や医療費は国から出されるし、この町の税金が、人口の減少により少なくても地方交付税のおかげで、一定に保つことができる。だから、小学生から高校生までの医療費を税金で賄うことによって、無償にするなど、住みやすい町づくりも進められている。だが、考えてほしい。もし、こういったことが日本という規模で起これば、どうなるだろう。税金を納める人が減るのだから、国の税金も減り、国からの税金で賄うというのは、無理になる。かといって年金や医療費を減らせば、高齢者が、安心できる社会をつくることができなくなる。だからこそ、真剣に考えなければならないと思う。

高齢者の人口に対する二十から六十四歳の人口は、年々減り続けている。少子高齢化はもはや、避けては通れない問題だろう。年金や医療費を必要とする人が増えていく一方で、それらの財源である税金を納める人が減っている。税金は、暮らしの肥料だ。より良い明日を咲かせるためには、必要不可欠である。だからこそ、国民一人一人が納税の義務をしっかり果たさなければいけないと思う。これからの社会を支えていくのは、他の誰でもなく、私達世代だ。明るい未来を迎えるためにも、ちゃんとした職につけるように努力し、納税の義務を果たしたいと思う。そして、それらをより有効に使い、社会に役立ててほしい。

和水町長賞

考え方が変わった日

菊水中学校　三年　深浦　麻岐

私はつい最近、税金について興味を持つようになりました。それは、三年生になると私の学校では必ず「税の教室」が開かれます。その時に税金の意味と税金を納める意味が分かりました。それまでは、ニュースで税金について取り上げられているのに気にもせず、ただ聞いているだけ、見ているだけでした。しかし最近になり、税金がどんなに深刻な問題なのか考えるようになりました。

ある日のことでした。

「税ってなに?」

私は税について勉強したのにもかかわらず、何気なく祖母に聞いてみると、祖母は語り始めました。

「麻岐が今日歯医者行ったでしょ。お金払わんでよかったろ?払わんでよかったのは税から出よるとたい。」

その話を聞いて、なんとなく税についての意味が分かりました。よくよく考えると、私の住んでいる町は、十七歳までは医療費が全額負担されています。それも町の税金から出ているのだと知りました。そもそも、町の税金が分かりません。なので、疑問に思った私は祖母に質問攻めをしました。

「町の税金てなに?どうやって税金になると?」

すると、

「税金の種類がいっぱいあるけん難しかねー。働いて稼いだお金の何分の一かが税金になるとたい。」

と詳しく教えてくれました。こうやってどんどん税金について聞いてみるとたくさんの税金の種類があるんだなと思いました。みんなが税金を納め、またみんなが使うとなると、循環していることになります。私たちが納めている税金をもっと有効に使うといろいろな人々を救ったり、支えになったりすると思います。例えば、無職で生活が出来ていない人々にその税金の一部を寄付したりすることもいいと思います。一人で税を納めて生活が出来ない一人の人の生活を負担するよりも、すべての人が税を納めて一人の人を負担する方が税を納める人にも負担はかからないと思います。たくさんの人が少しずつ納めた税は大きな支えになり、たくさんの人がお互いに支え合って生きているのだと思います。こうした小さな繋がりの中で税はかかせないものだと知ることができました。商品を買うときに付いてくる消費税が、いずれかの人々の為に使われることになります。それを知ることで、消費税に不満を持つことなく、笑顔で税を納めることができます。税を納めるということには、ちゃんとした意味があるんだと考えて行動していくように心掛けていきます。

和水町教育長賞

ケガしてわかったこと

三加和中学校　三年　吉永　和樹

税のことは、買い物をした時に払う五％の消費税くらいしかわからないのが正直なところです。僕は調べてみると、いろんな税があるとわかりました。

僕はこの夏、腰の痛みで病院に行きました。

「運動のし過ぎで、ただの腰痛だろう。湿布薬と痛み止めの薬で治るんじゃないかな。」くらいの気持ちで病院に行ったら、「第五腰椎分離症」と診断されました。椎骨後方にある突起群の関節突起間部の骨折です。確かに痛みがひどかったけど、こんな症状になっているとは、スポーツをしている僕にはショックでした。

この日、レントゲンを何枚も撮り、薬、先生の診察、治りょう費も高額だろうと思っていたら、僕の町は十八歳まで治りょう費は全額町が負担してくれるのでお金は支払わなくていいと母が教えてくれました。母が、

「学生の間はケガや病気ばかりするけど、安心して病院に通えるけん本当に助かるよね。これも税金を納める人がいるからあなたたちは安心して治りょう受けられるんだからね。」と言いました。今回、僕の腰に合わせたコルセットも作る事になりましたが、高額です。しかし、これも七割は税金から支払われるそうで、僕は三割支払えばいいと言われました。

これまで、どれだけ病気、ケガをしてきただろう。そのたびに注射を打ったり、薬をもらったりして治りょうしてきました。考えたら、これもすべて税金のおかげだったのです。

知らなければ何とも思わなかった事が今回のケガで僕たちは、税金についてもっと学ぶべきだと思いました。税への関心や理解が十分であれば、税金を払う人も納得したうえで納めることができます。

また、税率が上がると言われています。大変ですが、今回のようなケガ、老後にもらう年金の一部も税金、介護が必要になったときの介護サービスを利用した時にかかる金額の一部、道路を整備するのにも税金。小、中学校の教科書代なども税金、家庭から出るゴミの回収と処理にも税が使われています。

これから私たちが生活するうえで安心して暮らせる世の中であるためにも税金は必要です。僕も将来、働くようになったら、しっかり税金を納めて協力したいと思います。